

## 地元の雇用と恩返しのために

# 信頼と技術を、その手に宿して

### 時勢

かつて津軽地方を中心に、県内に数力所の生産拠点を持つ電子部品の製造企業があった。各拠点には1000人を超える従業員がいて、全体では10000人ほどになる大きな企業であった。それゆえに、業績は安泰の見通しだった。製造を請け負うだけでなく、開発も手がけていこうとしていたところが、受注していた製品の生産拠点が海外に移りはじめ、生産の縮小を余儀なくされていった。時を同じくして、軌道に乗せるべく取り組んでいたほかの生産事業が期待した成果を見せなかった。この状況を打破できず、生産拠点も縮小しはじめ、閉業へと進む。小山内さんは当時、工場長で、状況説明と生産が出来なくなることを謝罪するため、取り引き先各所に赴いたのだ。

### 起業

そんな中で「なんとか継続してくれないか」と言ってくれる企業が多数あった。前社時代の取り引き先からの信頼と折角の期待に慮るため、そして工場で共に汗を流した従業員が路頭に迷わないよう、一念発起の決断を下す。小山内さんも、自身で抱えた不安を振り払っての起業だった。

生産拠点はそのままに、前社を引き継ぐようにして、2010年に会社を設立した。

社名のテックイーには、技術や専門性を表すテクニカル(Technical)とテクニク(Technic)のテック(Tech)と、電気(Electronics)、環境(Environment)、エコロジー(Ecology)の頭文字イー(E)をとり、これらの3つの意味が込められている。

### 奮起

開業前後は、まさに前途多難であった。起業時には2008年のリーマンショックによる金融危機の影響、起業後は、2011年の東日本大震災。苦しい状況の中、経営を軌道に乗せるまではーと、歯をくいしばりながら先頭に立ち続けた。

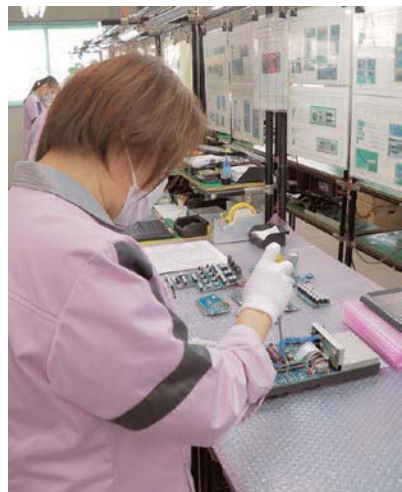
小山内さんは、起業時に守ると決意した信頼と雇用のために、「ひたすら奔走するしかなかった」と当時の気持ちを振り返る。心ない言葉が掛けられたり、資金繰りに苦労したりと頭を抱えるようなこともあったが、取り引き先をはじめ、金融機関や行政機関など業種を超えた声援が原動力となった。

小山内さんは「自分一人の力では出来なかった」と、当時を思い起こす。

## (株)テックイー

### 仲間

「会社として、転職は社員を信頼することにあつた」という。ただ、大きく自身の意識が変わる出来事があった。小山内さんは、経営難に陥らないようにと会社の隅々まで気を張って旗振りをしてきた。それを見た関東地方の企業から「もっと従業員に信頼を寄せようか」と声を掛けられたことがあつたのだという。前社時代から歩みを共にした従業員が仲間だという認識はこのことをきっかけに一層強くなる。結果として、社内での役割分担を見直すことに繋がり、効率の良い生産・経営へとシフトし、業績も自然と振るうようになった。関東地方から見守ってくれる企業の存在と、従業員と仲間としての強固な信頼関係が、同社の道を切りひらいた。



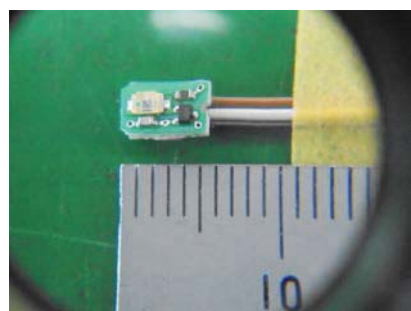
## 信頼

同社が手掛ける製品は、年間で1000種類を超えるという。機械による生産ができない、細かい調整が求められる手作業の生産を得意とする。5mm四方の基板から、3m四方の機械まで幅広く手掛けている。しっかりと工程や手順を守ることによって、不確実性を低減させ、不良品や返品はゼロに等しいという。

自社でトラックも所有している。関東地方の発注者に、地理的なハンデを感じさせないためだという。毎週納品や引き取りにトラックを走らせるほか、夕方までに電話連絡すると翌朝の納品も可能としている。地理的ハンデを克服した迅速な納品は、同社の強みとなっている。

一度取り引きのあった相手とは関係が途絶えたことが無いという。確かな品質と迅速な対応が産む相乗効果で、発注者はリピーターとなっていて関係が長く続いている。たとえ自社で受注できない案件でも、地元企業を紹介してコーディネートする役割を行うことも多いという。発注の有無を問わず客先の相談に応えることで信頼はより強く、大きくなっていく。

## 恩義



幅5mmの電子基板

地域の雇用と産業を守るために奔走した小山内さんは、地域への還元特別な思いがある。育ててくれた地元への感謝、共に奮起した従業員、応援してくれた人たちへの恩義だ。働き方改革にも着手した。育児や介護で働けない人のために在宅ワークを提供して、収入の確保や復帰のしやすさに配慮した。継続して働いてもらうことは、従業員が培った技術力の流出を防ぐばかりか、地域に根付いたものづくりへと貢献している。

小山内さんは、自身が小泊地域出身で、中里地域で創業したこと、現在も中里地域から約20人の従業員が働いていることもあって、地元・中泊町への思いも強い。自社トラック納品は、中泊町内の企業と協力して行い、自社の利益だけでなく、地域全体の利益と地域の産業を活性化させる狙いがある。

## 共存



自社トラック。毎週、納品と引き取りのために関東地方へ走っている。

関東地方を営業する際は、どんな技術力が求められ、需要があるのか常にアンテナを張り巡らせている。この津軽の地でものづくりを続け、地域の産業を守っていくためだ。小山内さんは「ものづくりによる地域への波及効果は大きい。関東から仕事を少しでも多く取り込み、継続することが、地域貢献につながる」と話す。仲間である従業員と育んできた同社の信頼と技術、そして同社の存在そのものが地域の活力を支えている。



代表取締役  
小山内 公樹さん  
(小泊地域出身)

## 株式会社 テックイー

【代表】 代表取締役 小山内 公樹

【所在地】 〒037-0401 五所川原市相内字岩井81-87

【電話】 0173-27-7766

【URL】 <http://www.tech-e.jp>

【設立】 2010年7月

【従業員】 41人

【業務】 電子機器製造事業(基板実装～完成品直送まで)、各種装置組み立て

【協力会社】 (株)M-PAL、武田電子(株)、タニサワ製作所 ほか県内十数社・県外十数社

